

ここでは、アフェレシス療法が神経疾患に対して有用性評価を得ている MG, GBS, MS, CIDP の治療について概説する。さらに、神経疾患に対する免疫吸着療法の作用メカニズムに関しては十分に解明されていないが、その主な作用メカニズムとして、1) 血中の病因物質の除去、2) 体外免疫調節作用(液性免疫・細胞性免疫)があり、これらについても紹介する。

4. 当科における SLE (ループス腎炎) に対するアフェレシスの変遷と現状

内田啓子*1・湯村和子*1・秋葉 隆*2・新田孝作*1
東京女子医大第四内科(腎臓内科)*1
同血液浄化療法科*2

SLE (ループス腎炎) は、我が国においてアフェレシスの保険適応をもつ数少ない疾患の一つである。当科でも 1980 年後半から 1990 年前半にかけて、積極的にループス腎炎症例にアフェレシスを行い、短期的な効果に対する報告を行ってきた (Wakai: Jpn J Nephrol 1990)。その後寛解導入療法の確立により SLE の予後が飛躍的に改善したことに加え、1992 年に Lewis らが N Engl J Med に、比較対照試験においてアフェレシスの有無は標準治療 (PSL+CPM) 単独と比較しその予後に影響を与えないと報告したことも影響し、SLE (ループス腎炎) に対するアフェレシスは世界的にみても年々減少してきているのが実情である。しかし当科では重症ループス腎炎の症例数は減少しているが、そのうちアフェレシスを施行した症例の割合に極端な減少はない。SLE の寛解導入治療確立とアフェレシス療法の歴史をたどりながら、どういった SLE (ループス腎炎) 症例にアフェレシスを適応していくべきかについて、自験例の提示もまじえながら、ご報告したいと考えている。

5. 関節リウマチー白血球除去療法を中心として一

小沼 心*1・山路 健*1・建部一夫*1・山口千枝*1
小笠原均*1・津田裕士*2・高崎芳成*1
順天堂大学膠原病内科*1
順天堂東京江東高齢者医療センター*2

関節リウマチ (RA) は、関節滑膜を病変の主座とし、滑膜増殖により関節軟骨や骨組織を破壊する自己免疫性全身性炎症性疾患である。近年の目覚ましい研究成果により RA の病態が徐々に解明され、治療も著しく進歩を遂げている。アフェレシス領域では、白血球除去療法 (LCAP) が RA に対し新たに保険適応と

なり、多くの症例に対し施行され効果を挙げている。RA に対する LCAP の臨床効果は、様々な報告や自験例から約 60~70% と考えられ、その効果発現の作用機序に関して、各施設において様々な検討が行われている。LCAP 前後において、炎症組織へ移行する際に重要な働きを担う接着分子である CD 11 a, CD 18 (LFA-1), CD 62 L (L-selectin) といった接着分子陽性の白血球が減少する。また、LCAP 前後で、血中の活性化 T 細胞が増加を認め、関節液中の活性化 T 細胞が減少するとの報告もある。サイトカインに関しては、TNF- α , IL-1 β , IL-6, IL-8 の減少、IL-10 の増加が報告されている。このように、LCAP において末梢血中からの効率的な白血球の除去により、活性化された顆粒球、リンパ球、単球の組織内への侵入を防ぐほか、白血球によるサイトカインネットワークを是正することなどにより効果が発現すると考えられる。

また、治療中もしくは治療後に白血球が除去され減少した後に、急激に増加をするオーバーシュート現象に関して、我々は注目し検討をしてきた。オーバーシュートによる白血球の増加は、肺や腸などの臓器やリンパ組織、血管内皮からの動員がその多くを占めると考えられるが、我々の検討では、末梢血において、どの血球にも分化しうる造血幹細胞レベルの非常に幼若な CD 34+CD 117+, CD 34+CD 133+, CD 34+, CD 13+ といった細胞が増加しており、オーバーシュートの一部は骨髄からの動員によりもたらされることが示唆された。オーバーシュート現象と LCAP の効果についての関連性は明確ではないが、効果発現のメカニズムに重要な現象であり、これにより白血球への質的な変化がもたらされる可能性があると考えている。

最後に、当施設にて施行した薬剤抵抗性関節リウマチ 30 例に対する白血球大量除去療法 (Pulse LCAP) の臨床効果、responder, non-responder の比較検討を報告する。

〈特別講演〉

呼吸器科医が興味をもつ PMX カラムの急性肺障害制御

貫和敏博

東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野

肺はガス交換という機能上、単に換気のみならず毛細血管に富んだ臓器である。この肺循環の膨大な面積を形成する毛細血管は流血中白血球のプールでもある。